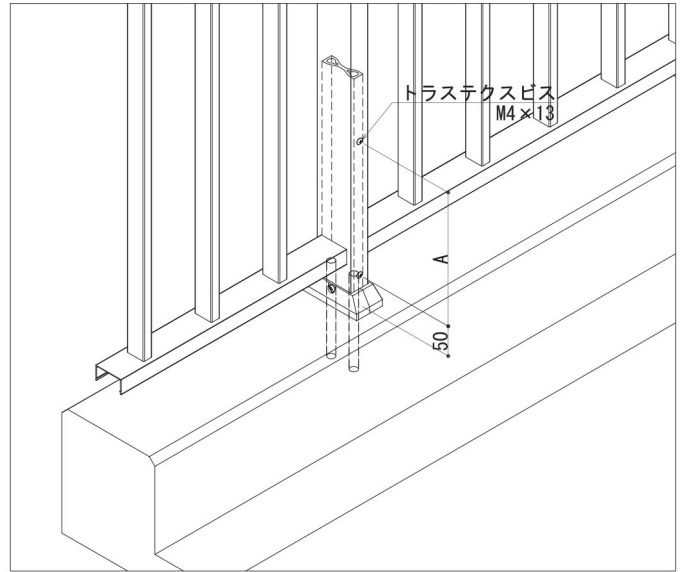


後付工法（樹脂アンカー工法）

- 躯体天端に穿孔した穴へ、樹脂接着剤を注入し、支柱固定用の専用アンカー金物を挿入し、固定する工法です。専用アンカー金物は高強度アルミ押出型材とステンレスねじ棒で構成し、耐久性と強度を高めています。
- 躯体天端に接するアンカー金物にはベースプレートとしてSUS304プレートを設けることで、強度の安定性、たわみの減少を図っています。
- 足元の化粧カバーは、耐候性、耐久性に大変優れたアルミダイカスト製を使用しています。
- 支柱の中に雨水等が浸入した場合、支柱と中柱のすき間から排水する構造としています。



■ 水平荷重

水平荷重	中柱品名	中柱寸法L	寸法	アンカー埋込深さ	穿孔	W寸法制限	H寸法制限
			A				
1225 N/m (125kg/m)	中柱S 250	250 (mm)	100 (mm)	80 (mm)	φ 14.5 × 90	W ≤ 1200	H ≤ 1200
1470 N/m (150kg/m)	中柱S 400	400 (mm)	250 (mm)	100 (mm)	φ 14.5 × 110		
2940 N/m (300kg/m)	中柱A 700	700 (mm)	550 (mm)	140 (mm)	φ 14.5 × 150	W ≤ 900	

手すり強度および躯体の安全性、耐久性を確保するには、躯体の設計、つまり、躯体幅、コンクリート強度、および、アンカーと鉄筋が干渉しない配筋設計が重要です。

＜強度上必要となる躯体条件＞ (1225N/m)	＜強度上必要となる躯体条件＞ (1470N/m)	＜鉄筋干渉を避けるための推奨躯体＞ (1225, 1470N/m)
<p>① アンカーと鉄筋が干渉した場合、アンカーを曲げて施工を行います。</p> <p>② 上図以下の躯体幅の場合、手すり高さ、支柱間隔を小さくする等の制限が出てきます。予めご了承願います。</p>		<p>① W配筋とした場合の図です。</p> <p>② 2940N/m仕様に対応できます。</p>

■ 設計・施工留意点

- ※ 躯体天端の水勾配には10° まで対応します。その際、支柱は、0° ～5° までは水平にカットし、5° を超える場合は、勾配に合わせて斜めカットします。中柱は、0° ～10° まで勾配に合わせて斜めカットします。
- ※ アンカー部分の引抜き、せん断強度を確保するために、十分な躯体厚、コンクリート強度の確保をお願いします。
- ※ アンカーと鉄筋の干渉しない配筋設計をお願いします。
- ※ アンカー施工後、樹脂接着剤の硬化時間内はボルトを動かさないでください。
- ※ 雨水などで孔壁が湿潤している場合は、乾燥させてから施工を行ってください。
- ※ 樹脂接着剤の充填はノズルを孔の奥まで差し込み、引抜きながら十分充填するようにしてください。充填が不十分の場合、所定の強度が得られません。
- ※ アンカー施工後、樹脂接着剤の硬化時間は温度によって異なりますので、カートリッジに記載の表を目安にしてください。
- ※ 躯体にベースプレートが接地するように施工してください。すき間があてしまった場合は、樹脂接着剤を注入してすき間をなくしてください。
- ※ 手すり支柱とひび割れ誘発目地の位置が重なると、躯体ひび割れによる手すり落下の原因となる恐れがありますので、手すり支柱とひび割れ誘発目地の離れ寸法を100mm以上として下さい。